

7 金融

(1) 金融機関預貸残高

県内金融機関の平成15年末の預金残高の総額は、8兆1537億円となり、前年末に比べ1.7%増加し3年振りに前年を上回った(図79)。

四半期別にみると(図80)、13年第4半期以降前年を下回る動きが続いたものの、15年第4半期には9期振りに前年を上回り、預金流出の動きに歯止めがかかった。

図79 金融機関預金残高(前年比・寄与度)

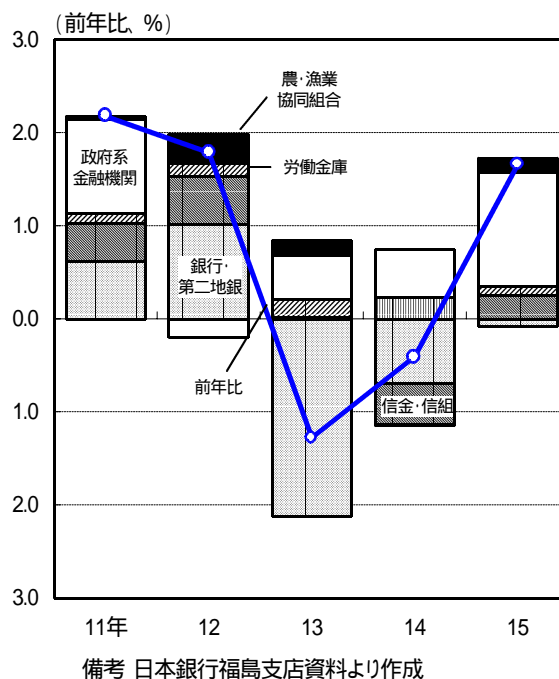
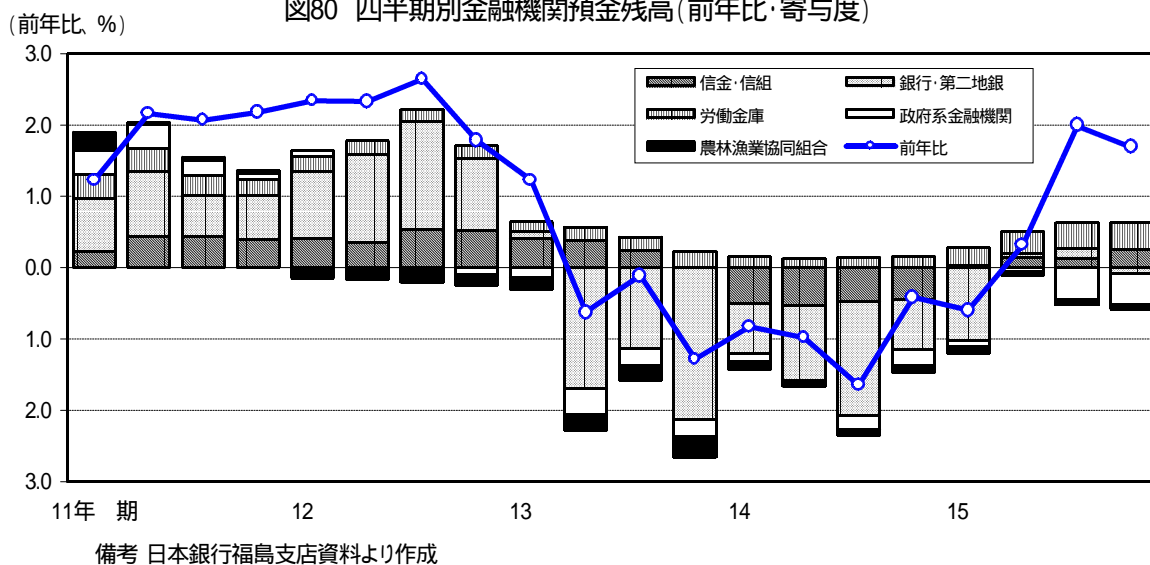


図80 四半期別金融機関預金残高(前年比・寄与度)



一方、平成 15 年末の貸出残高は個人向け住宅ローンが堅調に推移したものの法人向け資金需要が伸び悩み、年末値で総額は 5 兆 1767 億円となり、前年末に比べ 3.2% 減少し 2 年連続で前年を下回っている(図 81)。

四半期別にみると(図 82)、14 年第 四半期から 8 期連続で前年を下回る動きが続いている。

図81 金融機関貸出残高(前年比・寄与度)
(前年比、%)

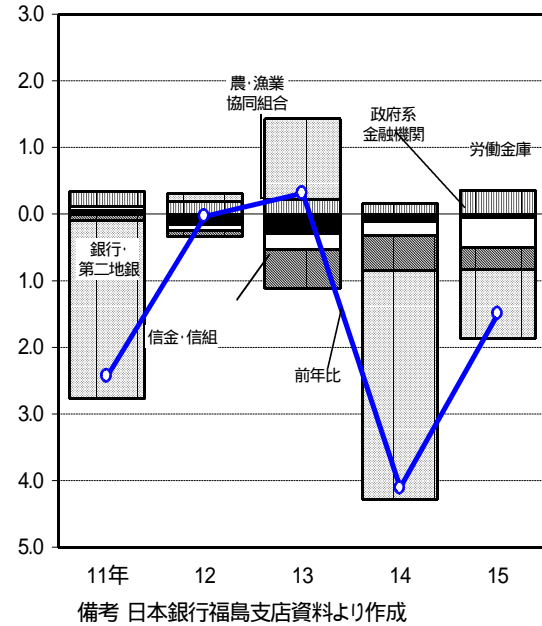
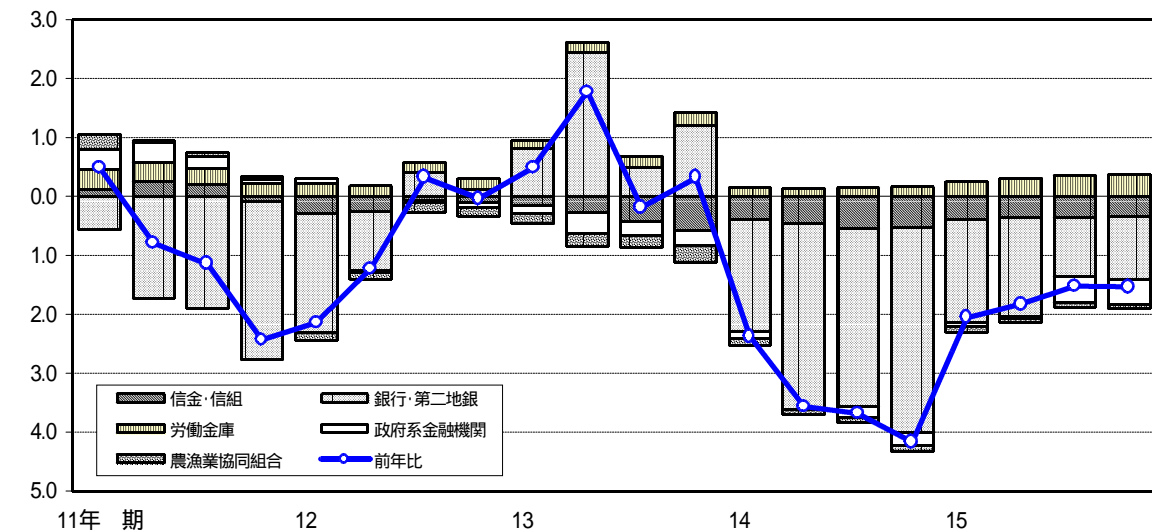


図82 四半期別金融機関貸出残高(前年比・寄与度)
(前年比、%)

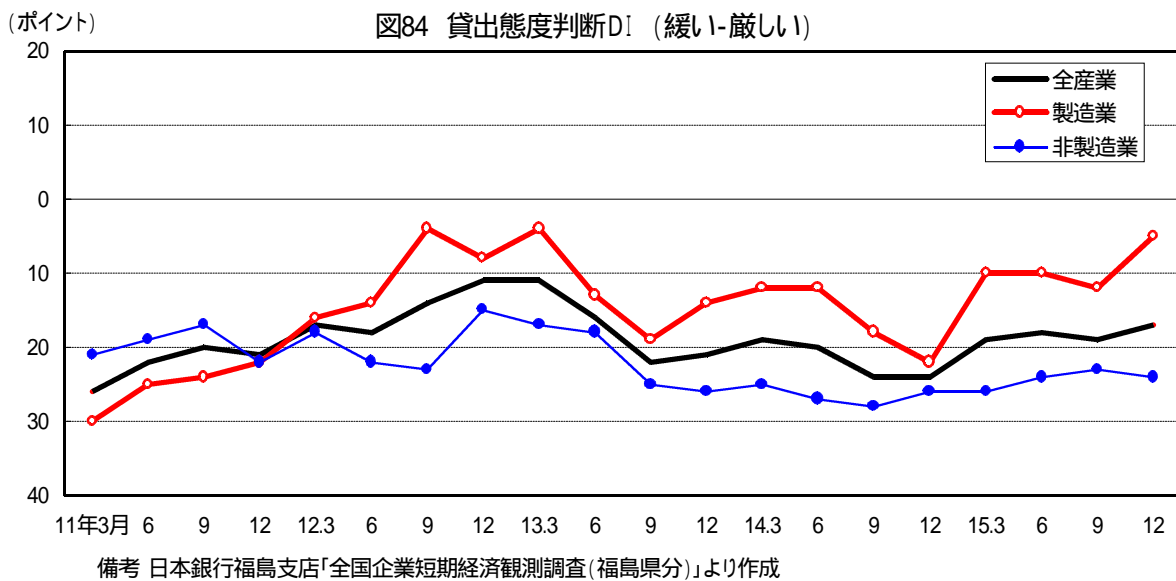
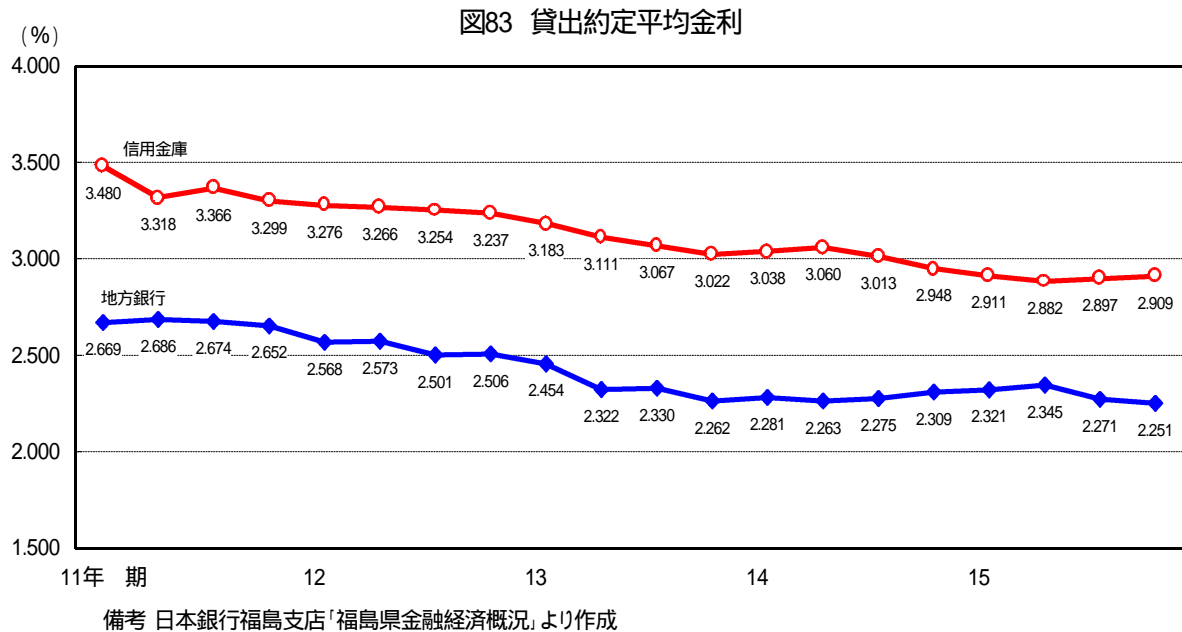


日本政策投資銀行の貸出額については、ここには含めておりませんので、指標編を御覧ください。

(2) 貸出約定平均金利

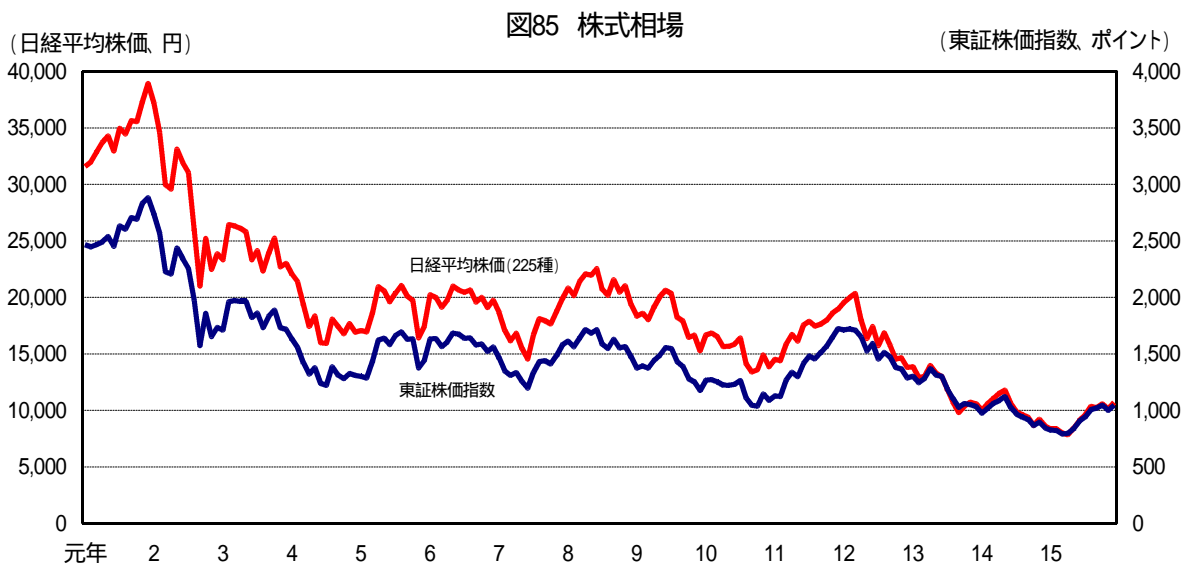
長引く不況を背景に、県内企業は積極的投資に慎重な姿勢を執り続けており、資金需要は低調に推移している。平成 15 年の貸出約定平均金利は、年末値で、地方銀行で 2.251% (前年差 0.058 ポイント低下)、信用金庫で 2.909% (同 0.039 ポイント低下) となり、ほぼ横ばいとなった (図 83)。

一方、日銀短期経済観測調査による貸出態度判断DIをみると (図 84)、企業側からみた金融機関の貸出態度は製造業を中心に厳しさが徐々に弱まりつつある。



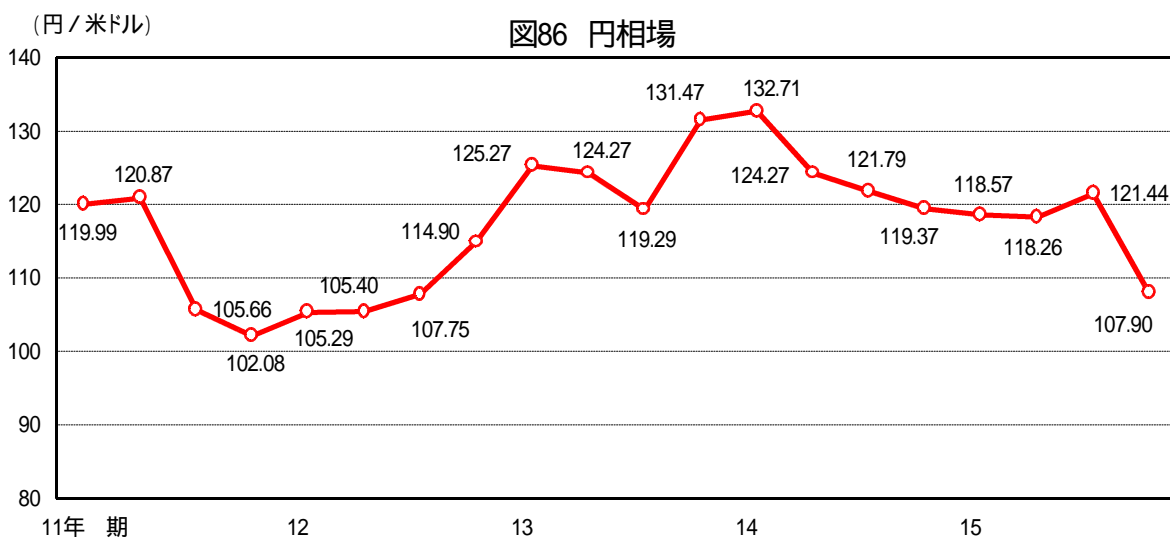
参考 株式市場相場と外国為替市場の円相場

平成 15 年の東証一部日経平均株価(225 種)の推移をみると(図 85)、14 年 12 月末の 8,578 円 95 銭から、4 月には最安値 7,607 円 88 銭まで下落したものの、8 月には 1 万円代を回復し 15 年 12 月末には 10,676 円 64 銭となった。また、東証株価指数もほぼ同様の動きとなり、15 年 3 月末には 788.00 となった後、15 年 12 月末には 1043.69 と上昇した。



備考 1 日本経済新聞社資料より作成
2 数値はいずれも月末値である。

さらに、平成 15 年の東京外国為替市場の円相場(対米ドル終値)は(図 86)、年初の 118 円台から円高傾向で推移し、年後半は 110 円を割り込み、年末には 107 円 90 銭となった。



備考 1 日本銀行「経済統計月報」より作成
2 値は期末値である。